

『就実教育実践研究』第13巻 抜刷
就実教育実践研究センター 2020年 3月31日 発行

身体表現に対する保育学生の意識調査

— 保育内容「表現（身体）」の受講前調査 —

Survey of childcare students' consciousness of expressive body movement

— Pre-attendance survey of class in childcare contents

'Expression (body movement)' —

松 本 希 ・ 秋山真理子 ・ 吉 田 升 ・ 飯 田 智 行

身体表現に対する保育学生の意識調査

— 保育内容「表現（身体）」の受講前調査 —

松本 希（幼児教育学科）

秋山真理子（幼児教育学科）

吉田 升（川崎医療福祉大学）

飯田智行（初等教育学科）

Survey of childcare students' consciousness of expressive body movement -Pre-attendance survey of class in childcare contents 'Expression (body movement)'-

Nozomi MATSUMOTO (Department of Preschool education)

Mariko AKIYAMA (Department of Preschool education)

Noboru YOSHIDA (Kawasaki University of Medical Welfare)

Tomoyuki IIDA (Department of Elementary Education)

抄録

本学では、幼稚園教育要領・保育所保育指針に基づき、保育内容の指導法及び保育内容演習を構成する科目の一つとして「表現」の学びのために「表現Ⅰ（身体）」の授業を実施している。「身体表現」は、高校まで独立した授業科目として存在しないため、授業初回に学生の「身体表現」に対するアンケート調査を実施している。その結果、体を動かすことや踊ることが好きな者が多いが、体で様々なことを表現することにはやや消極的な傾向があり、「身体表現」の授業にはリズム体操（型のある踊り）の習得を期待する者が多いことがわかった。この結果を踏まえ、保育内容「表現」のねらいと内容、内容の取扱いの理解を深めながら、「身体表現」への苦手意識を持つことがないよう、リズム体操等の「型のある踊り」や遊びを通した表現活動を取り掛かりに、様々な身体表現の経験を積むような授業計画が求められると考える。

キーワード 保育内容 表現 身体表現 保育士・幼稚園教諭養成課程

Ⅰ. はじめに

幼稚園は文部科学省の管轄であり「幼稚園教育要領」¹⁾に基づいて教育が、保育所は厚生労働省が管轄し「保育所保育指針」²⁾に基づいて保育が、幼保連携型認定こども園は内閣府が管轄し「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」³⁾に基づいて教育・保育が行われている。幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に

は、乳幼児期に育みたい資質・能力を乳幼児の生活する姿から捉え、子どもの発達の側面から「健康」「環境」「人間関係」「言葉」「表現」の5つの領域がしめされており、日々の教育及び保育実践はこの領域に即して行われている^{1) 2) 3)}。2017年に幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領は改定され、3歳以上の子どもに対する5領域は3法令で統一された。

領域の一つ「表現」のねらいと内容（保育所保育指針及び幼保連携型認定こども園教育・保育要領では、満3歳以上児のねらいと内容）では、以下のように示されている^{1) 2) 3)}。

表現

感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする。

(ねらい)

- ①いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性をもつ。
- ②感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。
- ③生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ。

(内容)

- ①生活の中で様々な音、形、色、手触り、動きなどに気づいたり、感じたりするなどして楽しむ。
- ②生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにする。
- ③様々な出来事の中で、感動したことを伝え合う楽しさを味わう。
- ④感じたこと、考えたことなどを音や動きなどで表現したり、自由にかいたり、つくったりなどする。
- ⑤いろいろな素材に親しみ、工夫して遊ぶ。
- ⑥音楽に親しみ、歌を歌ったり簡単なリズム楽器を使ったりなどする楽しさを味わう。
- ⑦かいたり、つくったりすることなどを楽しみ、遊びに使ったり、かざったりなどする。
- ⑧自分のイメージを動きや言葉などで表現したり、演じて遊んだりするなどの楽しさを味わう。

本学科では、保育士・幼稚園教諭養成校として、保育士資格は、平成27年3月に改正された指定保育士養成施設指定基準⁴⁾以前に示されていた保育士養成課程を構成する科目である「保育の表現技術（演習・4単位）」の目標にあった「身体表現、音楽表現、造形表現、言語表現などの表現活動に関する知識や技術を習得する」や「保育内容演習（演習5単位）」の目標にあった「子どもの発達を『健康・人間関係・環境・言葉・表現』の5領域の観点から捉え、子ども理解を深めながら保育内容について具体的に学ぶ」に基づき、保育内容「表現」に対する学修を深めるために、「表現」を身体表現、造形表現、音楽表現の3つの

分野に分け、それぞれ独立した授業カリキュラムとして学生に対して開講している^{注1)}。同様に幼稚園教諭免許状取得のために、教職員免許法⁵⁾に基づいて、「領域及び保育内容の指導法に関する科目」の「保育内容の指導法」を構成する科目として、「表現」を3つの分野（身体・造形・音楽）に分けて開講している^{注2)}。

数年来の本学科の時間割では、この「表現」に関する授業3科目は、保育を学び始めたばかりの1年次に全て開講している。「表現」の3つの分野のうち、造形表現は美術、音楽表現は音楽として、高校までの授業科目にあるが、身体表現については体育の授業内で習う機会はあるものの、授業内の単位として実施されているため、保育学生にとっては身体表現の授業内容を想像しにくいことが予測される。そこで、本学科では、身体表現の授業を実施する際には、授業を受ける保育学生を対象に、身体表現に関するアンケート調査を行い、得られた情報をもとに、授業内容の見直しを行ったり、学生への対応に利用したりしている。

本論文は、過去3年間のアンケート調査をまとめたものを報告する。

Ⅱ. 調査方法

身体表現の授業は、本学科では「表現Ⅰ」の授業名で実施されている。「表現Ⅰ」の授業1回目に、アンケート用紙を配布し、可能な範囲で答えるよう促して実施した。アンケート調査内容は以下に示す。

- ①身体表現には、どのようなイメージがありますか。(自由記述)
- ②体を動かすことは好きですか。(はい・どちらでもない・いいえ)
- ③リズム体操等、踊ることは好きですか。(はい・どちらでもない・いいえ)
- ④体でいろんなこと(例えば動物や人のまね等)を表すのは好きですか。
(はい・どちらでもない・いいえ)
- ⑤今までに体操やダンス等の経験はありますか。
- ⑥この授業の中で習いたいことや期待することを教えてください。(自由記述)

対象者は、2017年～2019年度に幼児教育学科に在籍していた1年生291名（女子学生286名、男子学生5名）である。

Ⅲ. 結果および考察

①身体表現には、どのようなイメージがありますか（一部抜粋）

- 体を動かす。
- ダンスや劇、オペレッタなどをする。
- 曲に合わせて踊る。
- 楽しく自由に体で表現する。
- 自分の想像力や表現力が必要な活動。
- 何か（生き物等）になりきる。 等

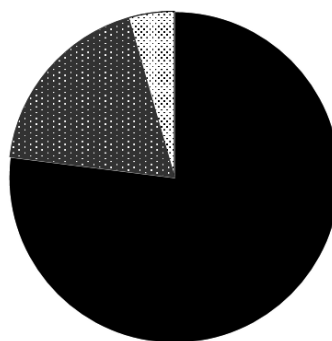
学生が、まだ授業を習っていない段階での身体表現に抱えるイメージを尋ねた質問項目である。高校までの身体表現に関係する経験や子どもたちが保育所や幼稚園で遊んでいる姿を想像して答えていると考える。

②体を動かすことは好きですか（図1）

この質問項目は、保育者として、子どもの身体表現活動を引き出したり、一緒に体を動かして楽しさを共有したりするためには、保育者自身も体を動かすことへの抵抗が少ない方がよいと考えるため、尋ねている。

77%の学生が体を動かすことが好きと答え、どちらでもないは19%、いいえは4%であった。

本調査と同様に保育学生を対象とした先行研究⁶⁾においても、運動すること（体を動かすこと）が好きであるかのアンケートに80%の学生が「特にそう思う」「そう思う」、11%が「どちらでもない」、9%が「そ



■はい ■どちらでもない □いいえ

図1 体を動かすことは好きか

う思わない」と答えたと報告しており、本調査とはほぼ同様の結果であった。小・中・高校生を対象とした運動の好き嫌いの調査研究^{7) 8)}では、女子高生の約7割が運動を好きと答え、残りの3割が嫌いと報告している。本調査は、運動の好き嫌いではなく、体を動かすことの好き・好きではないを質問している。加えて3件法であったため、「どちらでもない」と答えた学生が好き・好きではないのどちらに寄っているか不明であるため、先行調査と単純に比較することは難しい。しかしながら、明確に体を動かすことは好きでないと答えた学生が4%の少数であったことを考えると、本学科の保育学生は、体を動かすことが好きな者が多い集団であると考ええる。

③リズム体操等、踊ることは好きですか（図2）

保育現場では、活動前の準備体操としてなど、保育中にリズム体操（型のある踊り）を実施することが多い⁹⁾。またリズム体操は、子どもが覚えるまで保育者が見本となり、子

どもの前で踊る機会も多いと考える。そのため、学生にリズム体操や踊ることが好きかどうかを尋ねた。

好きと答えた学生は67.0%、どちらでもないが28.9%、いいえは4.1%という結果であった。

保育学生を対象とした先行研究⁶⁾では、ダンス（動きの決まったダンス）をすることが好きであるかのアンケートに、66%が「特にそう思う」「そう思う」、23%が「どちらでもない」、12%が「そう思わない」「全く思わない」と答えたと報告している。この先行研究と比較すると本学科の保育学生は、リズム体操や踊ることに苦手意識を持っている学生の割合が少ないことが伺える。

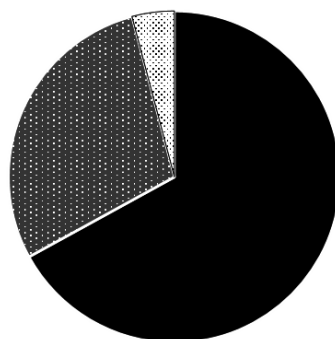


図2 リズム体操及び踊りは好きか

④体でいろんなことを表すのは好きですか（図3）

子どもは発育発達の過程の中で、身近な大人や友達などの模倣をしながら、様々な動作を獲得していく。加えて、言葉の獲得ができていない時期には、保育者が子どもに表情や身振り手振りで物事を示したり、体を使ったりして気持ちを通わせる機会も多い。そのために尋ねた質問項目である。

はいと答えた保育学生は30.6%、どちらでもないは46.4%、いいえは22.7%であった。アンケート項目の②（図1）、③（図2）の結果と比較して、どちらでもない・いいえと答えた保育学生が増加した。体でいろんなことを表すことに消極的な気持ちを抱えている者が多いことが予測される。

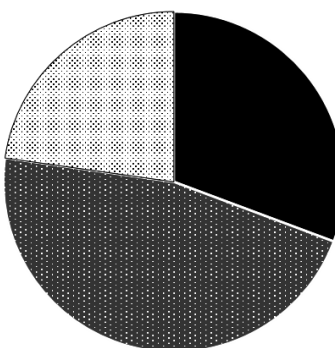


図3 体で表現することは好きか

⑤今までに体操やダンス等の経験はありますか（図4）

この問いは、高校までの体育授業及び学校行事以外で、部活動や習い事として体操やダンス等を行っていたかどうかを尋ねている。本調査では、あると答えた保育学生が24.4%であり、ないと答えた保育学生が半数以上を占めた。

スポーツ庁の調査¹⁰⁾によると女子中学生の運動部活動の参加率は約54%、女子高生になると約27%である。高校でのダンス部の部員数は増加しているとの報告はあるが、女子生徒の競技人口の多い部活動は、バレーボール・バスケットボール・バドミントンの順である

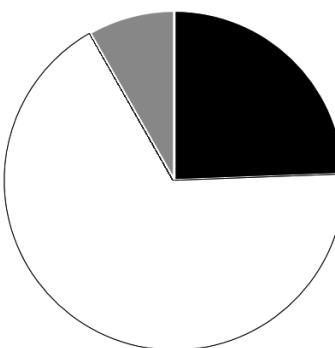


図4 体操やダンス経験の有無

¹¹⁾。一方で、幼児期の習い事の調査では、スポーツ活動系の人気習い事ランキングでは2位に体操教室・運動遊び(14.4%)、4位にダンス(5.8%)が入っている¹²⁾。このような背景を考慮すると、体操やダンス等の経験がある学生はやや多いのではないかと考える。

⑥授業の中で習いたいことや期待することを教えてください(一部抜粋)

- いろいろな踊りを知りたい、たくさんのリズム体操を知りたい。
- 人前に出ることの恥ずかしさを払拭したい。
- 子どもへの教授法。
- 身体を動かして表現することの楽しさを知りたい。
- 身体表現ができるようになりたい。 等

この問いへは、「たくさんのリズム体操を知りたい」という回答が圧倒的に多い。本学科の学生の指す「リズム体操」とは、定型の振り付けのある幼児向けの体操のことである。保育現場では、活動時等にリズム体操を踊る機会が多いことを想定しての回答だと予測する。一方で、本調査の対象者は、2012年に改訂された中学校学習指導要領¹³⁾により、中学校での保健体育のダンス必修化が始まって以降の保育学生である。この改訂では、それまでの「創作ダンス」「フォークダンス」に加えて新たに「現代的なリズムのダンス」が導入された。「現代的なリズムのダンス」は積極的に取り入れられ、「創作ダンス」を上回る実施率となっている¹⁴⁾。しかしながら、自由にリズムに乗って踊るというよりも定型の振り付けを覚えて踊ることの方が多いようである。教員を対象とした調査では、初めてダンスを指導する教員にとって指導しやすい種目は、フォークダンス、現代的なリズムのダンス、創作ダンスの順であるとの報告がある¹⁵⁾。このようなことから、保育学生は中学生の時に、定型の振り付けを覚えて踊った経験がある者が多いことが予想される。加えて指導経験が無く、子どもとの関わる機会が少ない保育学生(1年次)にとっては、子どもの発育発達の過程を理解し、子どもの行動を予想して一緒に身体の動きを使って模倣表現や即興表現等の活動をするに困難さを感じる者が多いことが予測され、定型の振り付けを覚えてその内容を指導するリズム体操の方が容易に感じられるためにリズム体操の種類を多く知りたいとの回答が多いものと考ええる。

IV. 総合考察(まとめ)

幼児教育におけるダンス教育の変遷は、1874年に愛知県師範学校の伊沢修二により、フレーベルの教育思想に習って、低年齢児には体操よりも音楽リズムに合わせた運動が適するとして実践した¹⁶⁾。1876年に開園された東京師範学校附属幼稚園では、自然や生活体験、遊戯(体操やダンス)が中心に保育内容が組まれ、日本のダンス教育が広まっていった¹⁷⁾。1948年に文部省から刊行された「保育要領-幼児教育の手引き-」¹⁸⁾の保育内容は「見学、リズム、休息、自由遊び、音楽、お話、絵画、制作、自然観察、ごっこ遊び・劇遊び・人

形芝居、健康教育、年間行事」であった。1956年に「幼稚園教育要領」が刊行され、保育内容は「健康、社会、自然、言語、音楽リズム、絵画制作」の6領域となった。そこから9年後の1965年に「保育所保育指針」が示され、「幼稚園教育要領」と「保育所保育指針」は10年ごとに改訂されている。現在の5領域になったのは1989年の改定時であり、「健康、環境、人間関係、言葉、表現」となった。それまで音楽表現として「音楽リズム」が、造形表現として「絵画制作」があり、技術的な指導に重点が置かれがちであったが、感性を育てることの重要性が指摘され、感性と表現に関する領域として「表現」が新たに組み込まれた¹⁹⁾。

本学科の保育学生のアンケート結果をみると、体を動かしたり、リズム体操や踊ったりすることが好きな集団ではあるが、体でいろんなことを表すことについては好きと感じている者が少なくなる。学生の身体表現の授業に対する期待は、リズム体操を多く知りたいが一番多い。先に示したように、現行の「表現」のねらいと内容の中には、直接的に「踊る」や「ダンス」等の言葉はない。子どもの見たこと・感じたこと・理解したことなどの心の動きを、身体・音楽・造形表現を使って、単独もしくは複合的に表出することが求められている。保育学生においては、「表現」が明確にイメージできていないため、「表現」のねらいと内容、内容の取扱いを深く読み解くことが必要であると考ええる。

一方で、保育学生を対象に調査した先行研究²⁰⁾によると、身体表現の授業において、「型のある踊り」「表現遊び」「自由表現」は身体表現を好きになるために有効な授業内容であると報告している。まだ指導力の十分に備わっていない保育学生には、身体表現を好きになるきっかけとして「型のある踊り」であるフォークダンスやリズム体操、表現遊びを取り掛かりとして、うまく踊ったり、簡単な表現遊びをしたりすることで、喜びや達成感、受容感を得ながら、その他の身体表現の方法を習得していくような手順を踏めば、身体表現へ苦手意識を抱えることが少なくなるかもしれない。このことを裏付ける内容として、本アンケート調査で実施している⑤「今までに体操やダンスなどの経験はありますか」の質問にはいと答えた者のみでアンケート④の「体でいろんなことを表すことが好きですか」を調べてみると、はいは45.1%、どちらでもないは39.4%、いいえは15.5%となり、図4で示した結果とは異なる割合となる。大学入学までの体操やダンス等の活動において、前向きな経験をしたことにより身体表現への苦手意識を持つ者が少なくなっていると考ええる。

古市²¹⁾は、幼児の身体表現の指導において、保育者自身が緊張していると幼児に身体表現の楽しさが伝わらない、保育者自身に身体表現に対する苦手意識がないことが重要な要件であると述べている。現在、本学科で実施している身体表現の授業内容を大きく分類すると「リズム表現」「表現遊び」「模倣表現」「即興表現」「身近な素材を用いた表現」「創作発表」のように分けられる。今までに学校の授業以外に体操やダンス等の経験の無い保育学生が多いため、肢体を上手く使って表現活動ができるということよりも、プラスの感情を表出させて、伸び伸びと活動することに着目して授業を進めている。加えて、本授業科目は1年次で開講され、幼児教育についての学びがスタートしたばかりであるため、技

術だけでなく知識の習得にも配慮している。

前述したとおり、本学科の身体表現の授業を構成する「リズム表現」「表現遊び」「模倣表現」「即興表現」「身近な素材を用いた表現」「創作発表」は、アンケート調査にある①「身体表現にはどのようなイメージがありますか」の質問の答えにある内容のいずれかにほぼあてはまる。保育学生の回答に全ての内容を網羅していた者はいないが、学生の身体表現に対するイメージは、実際に授業で行う内容と大きくかけ離れてはいないことがわかった。しかしながら、短絡的に「体を動かす」「ダンスや劇、オペレッタなどをする」と答えている可能性もあるので、多角的に思考し、授業内容への理解が深まるよう配慮して授業を実施したい。

本学科で実施している身体表現の授業を通して、自分の気持ちや感情を否定されずに受容された環境の中で、個々の違いも受け入れる大切さを理解し、伸び伸びと心とからだ動き、踊ったり演じたりする楽しさや多様な動きの面白さを感じながら、子どもと充実した時間を共有できる保育者になることを願っている。

V. 注

注1) 本学科では、2019年度より平成27年3月に改正された「指定保育士養成施設指定基準」に基づき授業が展開されている。「表現」は、「保育内容の理解と方法」を構成する授業科目として実施している。「表現Ⅰ」は身体表現、「表現Ⅱ」は音楽表現、「表現Ⅲ」は造形表現に関する知識と技術を学ぶ科目となっている。

注2) 2019年4月に教育職員免許法が改正された。2019年度の入学者より最新の教育職員免許法に則した教職の課程認定に変更された。

VI. 参考文献

- 1) 文部科学省, 2017. 幼稚園教育要領
- 2) 厚生労働省, 2017. 保育所保育指針
- 3) 内閣府, 2017. 幼保連携型認定こども園教育・保育要領
- 4) 厚生労働省, 2015. 指定保育士養成施設指定基準
- 5) 文部科学省, 2016. 教職員免許法
- 6) 松村朋子. 2016. 「学生の身体表現への意識変化に関する研究-保育内容指導法の授業を通じて」, 白鷗大学教育学部論文集, 10(1), 303-321.
- 7) 國木孝治, 俵尚平. 2019. 「小・中・高校生の「運動・スポーツ」と「体育」の授業の意識に関する研究(1)-「運動・スポーツ」と「体育」の好嫌との関連性に着目して-」, 至誠館大学研究紀要, 6, 1-13.
- 8) 蝦名秀哉, 高見京太. 2018 「中高生における運動および体育に対する好き嫌いの実態と要因の観点から「よい体育の授業」を検討する」, 法政大学スポーツ健康学研究, 9, 49-63.

- 9) 高原和子, 瀧信子, 矢野咲子, 怡土ゆき絵, 青木理子, 小川鮎子, 小松恵理子. 2017. 「保育者養成における身体を使った表現（身体表現）指導の実態」, 福岡女学院大学紀要 人間関係学部偏, 18, 71-75.
- 10) スポーツ庁. 2017. 「運動部活動の現状について」, 運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン検討会議（第1回）, 資料2
- 11) 公益財団法人全国高等学校体育連盟, 「令和頑年度加盟登録状況」.
https://www.zen-koutairen.com/f_regist.html (2019年11月28日アクセス)
- 12) ベネッセ教育総合研究所, 「学校外教育活動に関する調査」
https://berd.benesse.jp/berd/center/open/report/kyoikuhi/webreport/report05_01.html
(2019年11月28日アクセス)
- 13) 文部科学省, 2012. 中学校学習指導要領
- 14) 中村恭子. 2013. 「日本のダンス教育の変遷と中学校における男女必修化の課題」, スポーツ社会学研究, 21(1), 37-51.
- 15) 中村恭子. 2009. 「中学校ダンスの男女必修化の課題-中学校教員を対象とした調査にもとづいて-」, 順天堂スポーツ健康科学研究, 1(1), 27-39.
- 16) 塩崎みづほ. 2010. 「学校におけるダンス教育と社会におけるダンスの変遷-ダンスへの社会化に関する研究として-」, 有明教育芸術短期大学紀要, 1, 91-98.
- 17) 「お茶の水女子大学百年史」刊行委員会. 1984. 「お茶の水女子大学百年史」, 717-815.
- 18) 文部科学省. 「幼稚園教育要領改訂の経緯及び概要」.
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/026/siryo/05120701/008.htm
(2019年11月28日アクセス)
- 19) 文部科学省. 1989. 「幼稚園教育要領解説」, フレーベル館, 129-155
- 20) 矢野下美智子. 2018. 「保育者養成における身体表現の授業の在り方について-「身体表現を好きになること」と「授業内容」の関係-」, 広島文化学園短期大学紀要, 51, 31-37.
- 21) 古市久子. 2013. 「保育表現技術 豊かに育つ・育てる身体表現」ミネルヴァ書房